

「自宅で飲まない」37%

市場調査会社シーコム（福岡市）が福岡県内在住者を対象に実施した飲酒習慣調査の結果によると、20代男女が酒類を飲む頻度は月平均5・7回となり、40～60代（10・3～11・3回）の半分にとどまった。同社は「若者のアルコール離れが顕

アルコール離れ 20代でくっきり

福岡県内ネット調査

著に表れた」としている。飲酒の場所別でみると、飲食店は20～60代のいずれでも月平均1・0回（1・7回と各年代で大差はなかった。自宅での飲酒は40、60代が9・5回、50代が9・1回と、20代の4・0回を大きく上回った。30代も6・3回と少なく、同社は「30代前にもアルコール離れが半に上がった」としている。あるようだ」としている。自宅ですべて飲酒をしない割合は、20代で37・9％に上り、20％前後の30代と比べて突出。飲食店での飲酒がゼロの割合も20代では25・7％を占め、17％前後の30～50代を上回った。60代は仕事中の飲酒回数が減る傾向が顕著に表れた」としている。調査は、同社のモニターを対象に5月下旬に実施。インターネットを通じて男女700人から回答を得た。（小川俊一）